

校内研究計画

1 研究主題

英語を使って他者と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けた児童の育成
～コミュニケーションの素地から基礎への滑らかな移行を目指す外国語活動の実践を通して～

2 主題設定の理由

平成20年に公示された小学校学習指導要領により、平成23年度から5・6年生において週に1時間の外国語活動が必修となり、ALT や外部講師のサポートを受けながら、基本的に担任が中心となって授業を進めていくことになった。また、文部科学省からは児童用教材として英語ノートや *Hi, friends!* が配付され、それらに準拠したデジタル教材を活用しながら授業が進められてきた。その成果として、すべての教科を指導する小学校担任の特性を生かした授業が全国で見られるようになった。その一方で、5・6年担任だけが授業に関わり、外国語活動が学校全体に広がらないことや一部の学校では、ALT や外部講師に指導計画や授業を丸投げしてしまうような授業が見られるという課題も出てきた。

外国語活動に関する文部科学省の調査では、小学生の7割が「外国語活動が好き」、中学生の8割が「小学校の外国語活動(簡単な英会話)が役に立った」と回答している。また、中学校教員は「外国語活動導入前に比べて、生徒による英語の聞く力・話す力が向上した」と肯定的に評価している。

一方、課題としては、「音声中心で学んだことが、中学校の段階での音声から文字への学習に円滑に接続されていないこと」、「日本語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係、文構造の学習に課題があること」、「高学年は、児童の抽象的な思考力が高まる段階であり、より体系的な学習が求められること」などが指摘されている。

このようなことから平成29年3月に公示された新学習指導要領では、児童の発達段階を考慮して、高学年で年間70時間の教科としての外国語科が、また、中学年では年間35時間の外国語活動の授業が導入されることとなった。具体的には、中学年では、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することが求められる。また、高学年では、外国語による、聞くこと、読むこと、話すこと、書く事の言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することが求められる。さらに、言語活動の領域として、「話すこと」が「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」に分けられたことも大きな特徴である。

そこで、本研究では、中学年でのコミュニケーションの素地の育成から、高学年でのコミュニケーションの基礎の育成への滑らかな移行を目指した指導法の連続性を求め、研究主題を設定した。

英語を使う必然性のある活動を設定し、それに伴う場面設定と教材の工夫を行うことを通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と態度を身に付けた児童を育成したい。

3 研究組織

(1) 研究推進委員会

- ・ 研究の方向性を話し合い、今後の研究推進計画を策定する。
- ・ メンバー…校長、教頭、主幹、指導教諭、研究主任、研究副主任、学年部会から1名ずつ
各専門部会から1名ずつ(学年部会代表と専門部会代表は兼ねることもできる。)

(2) 学年部会

- ア 中学年部会…*"Let's Try!"*を活用した授業の在り方に関する研究
- イ 高学年部会…*"We Can!"*を活用した授業の在り方に関する研究

- ウ 低学年担任、特別支援担当及び級外職員は中学年部会又は高学年部会に分かれて所属する。
- エ 研究発表会終了後は、低学年部会を組織し、低学年における外国語活動の在り方に関する実践と研究を行う。

(3) 専門部会

ア 授業研究部…授業の実践に関する取り組み

- ・ *"Let's Try!"*及び*"We Can!"*を活用した活動のアレンジ
- ・ 年間カリキュラムの策定
- ・ 振り返りカードの検討
- ・ 評価の在り方に関する研究 など

イ 環境・教材部…環境や教材整備に関する取り組み、主に児童に関わること

- ・ 掲示物の作成計画
- ・ 絵カードの整理
- ・ 教室環境開発
- ・ 教材の整理と保管 など

ウ 調査・研修部…調査や職員研修に関する取り組み、主に職員や保護者に関わること

- ・ アンケートの作成とデータ処理(児童・保護者・教師等)
- ・ 外国語活動だよりやホームページによる情報発信
- ・ 参考書籍、参考ウェブページ等の発掘と紹介
- ・ 研究紀要とりまとめ
- ・ 英語表現や活動に関する教師研修の計画 など

4 研究の内容と方法

(1) 小学校外国語科及び外国語活動に関する理論研究

- ・ 先行研究、専門書などの文献により外国語科及び外国語活動の授業の在り方に関しての理論研究を行う。
- ・ 講師を招聘し、外国語科及び外国語活動の授業の在り方に関する研修を行う。

(2) 外国語科及び外国語活動に関する授業実践

- ・ 学年に応じた活動例や授業で使える教材などを作成する。
- ・ グループ研究会及び全体研究会による公開授業と授業研究会を通して、授業や活動の在り方に関する実践研究を行う。
- ・ 講師を招聘し、授業に対する指導助言を得る。

(3) 研究のまとめ

- ・ アンケートなどを通して児童の変容や教師・保護者の意識について考察する。
- ・ 成果と課題を整理し、研究紀要にまとめて公開する。

5 期待される成果

- (1) これまでの授業に加え、簡単な表現が身に付くための手立てを講ずることで、英語を使ってコミュニケーションが図れることに気づき、自信を持つようになる。
- (2) 新たに出会った表現においても、指導者(担任、JTE、ALT)が発する英語とジェスチャー等を頼りに、教師が何を話しているか文脈を推測する力が身に付き、英語に限らず日本語での様々なコミュニケーションにおいても他者の発話の真意を推し量る力とコミュニケーションへの積極性が芽生えてくる。